

2019年3月27日（水曜）

全労金2019春季生活闘争ニュース・第31号

《合意速報No.13》

東北労組が関連会社との団体交渉で、「基本合意」を表明しました！

東北労組は、3月27日11時から、関連会社と「団体交渉」を開催し、基本合意を表明しました。要求と回答は以下の通りです。

		要 求（関連）					回 答（関連）				
		正社員	契約社員	ビル管理社員	代理店契約社員	再雇用嘱託社員	正社員	契約社員	ビル管理社員	代理店契約社員	再雇用嘱託社員
基本賃金		定期昇給の実施	4,000円の引き上げ			定期昇給の実施	2,000円				
一時金		4.0	1.0～3.6		—	4.0	40,000円～3.1			—	
昨年実績		3.8	40,000～2.6		—	3.8	40,000～2.6			—	
安定雇用	無期転換	—	(実現)		—	—	(実現)		—		
	登用制度		(制度はないが実績あり)				(制度はないが実績あり)				
最低賃金		—				—					
雇用環境	ジョブ・リターン	—				—					
	年休積立	(実現)				(実現)					
	私傷病休職	(実現)				(実現)					
公正処遇	年休	(実現)			—	(実現)			—		
	生休	(実現)			—	(実現)			—		
	母性保護	(実現)			—	(実現)			—		
単組独自要求		—	退職金制度の導入		—	—	要求通り		—		

団体交渉において、会社からは「ろうきんサービスを取り巻く環境は厳しい状況であるが、社員のモチベーションの維持・向上が必要と認識しており、回答を準備した。今後も2018年4月から導入している人事制度の見直しや、2020年度に働き方改革関連法の施行も予定されており、労働組合との協議を通じて社員の働きやすい環境作りをしたい」等の見解が表明されました。

松崎闘争委員長は、「要求提出以降、私たちの職場実態や生活の実態を基に取りまとめた要求に対して、真摯に検討をいただき交渉を継続してきた営みについて感謝申し上げます。2019春闘の最大の争点は、私たちの職場実態や生活の実態に基づく総合的な生活改善、底上げ・底支え、格差是正、公平・公正な処遇の実現である。このことは、東北労金サービスに働く社員が、社会環境の変化や金融業態を取り巻く経営環境の厳しさの中で、モチベーションを維持し、やりがい、働き甲斐を持ち、安心して働き続けられる環境の整備が必要とされているからである。東北労金サービスと東北労働金庫が、労働者自主福祉運動を実践する事業体として、社員・組合員が引き続き対等なパートナーで

あることを確認し合い、事業の安定的な発展に繋がっていくことを期待するところである。本日晒された回答については、要求に届いていない部分があるが、正職員の一時金をはじめ、契約社員等の賃金・一時金の改善、代理店契約社員への退職金制度導入と、要求全般に対して、この間の社員の奮闘や頑張りに応える内容であると判断している。引き続き、2018年度4月に導入していた人事制度の運用状況や適正な運用に向けた協議を進め、働きがいややりがいにつながっていく、実効性を高めるために、更なる労使関係の構築をしていきたいと考える」等を表明しました。

単組は、①要求全般に関して、満額回答とはなっていないものの会社として最大限検討した精一杯の回答が示されたこと、等から基本合意を表明しました。

＊合意単組（10単組／3月27日18時10分現在）

長野・北海道(金庫・関連)・四国・沖縄・セントラル・近畿(金庫)・北陸
九州(金庫)・九州(関連)・中国(金庫)・中国(関連)・東北(金庫)・東北(関連)

以 上